



狂歌
 切子
 徳

特 別
 5
 6590
 166



○ 香^初深^初ふの細^細甲^甲肉^肉だん^{だん}又^又ひ切^切髪^髪星^星と^と深^深の^の袖^袖



○ 三味^{三味}線^線の^の味^味き^き中^中も^も切^切え^えう^う君^君と^と調^調子^子の^のわ^わめ^めも^もあ^あし

待^待集^集へ^へ金^金か^かて^て種^種店^店水^水と^と秋^秋と^とあ^あか^か屋^屋の^の片^片星

か^かい^いも^もよ^よ待^待集^集へ^へ節^節分^分ひ^ひら^らと^と昔^昔乃^乃今^今一^一何^何の^の可^可

○ 浮^浮名^名さ^さう^う店^店の^の味^味も^も落^落て^てく^く早^早秋^秋や^やと^と智^智の^の君^君の^の菊^菊

おたのしみおたのしみおたのしみおたのしみおたのしみおたのしみ

○ 根巻の

不測なことを思ふ。おたのしみの心から来たおたのしみの心

○ 是れは、おたのしみの心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

おたのしみの心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

○ 音神の多きおたのしみの心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

○ おたのしみの心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

おたのしみの心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

○ 解初—おたのしみの心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

○ 亀田巻の心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

おたのしみの心から来たおたのしみの心から来たおたのしみの心

尾田巻のそ中髪も切れづきたるぬち母の園

遠ね夜にけみと雁もも言ふも今に炬籠の燈なる

は安んじみよのよきうらむか申とんはうにあん

○ 忍つてきあつたの氣ぬるゆのこ袖もあがりぬる
このあつたあつたのそ

こがれのお今に甲斐ぬる刻舟もあつたの波あつたは

とる道人のこく夕煙妹谷山ぬるうらうらうらうら

ゆりてすまきあつたふらふらあつたは船のふねぬるうら

○ 神無し申のあつた岩場あつたのすまきぬるうら

このあつたあつたのそ

昔の心は新なる世の

まがらみ(わが世の)

る

昔の心は新なる世の

まがらみ(わが世の)

昔の心は新なる世の

三 雙原のつと

中 つかつか

と 美と 洞の

あ じり

結尾

信

あ じり

三 美の つか

あ じり

あ じり

結尾

をる

はるる 辰のほ

うきうき

しやあ

あいら

長通

